

大分大学医学部附属病院薬剤部の取り組み

薬剤師外来で医師をサポート 地域では保険薬局の戦力アップ

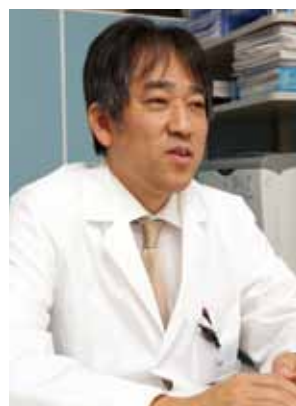
地域での薬剤師の関わりが増えていくことを見据え、大分大学医学部附属病院薬剤部では副作用の防止と早期発見を目指して、地域の保険薬局薬剤師の戦力アップを図るためのフィジカルアセスメント講習を一昨年から開催している。また、院外処方箋への検査値データの記載や専門外来での薬剤管理指導など、新しい取り組みも始めた。



副作用を読み解くための フィジカルアセスメント講習会

病院完結型医療から地域完結型医療へ、2025年モデルの地域包括ケアシステムの構築へ向けて在宅医療が推進される中、地域における薬剤師の関わりが重要になっている。ところが「大分県では、薬局薬剤師のうち実際に在宅医療に携わっているのは1割程度に留まっている」と、大分大学医学部教授・附属病院薬剤部長の伊東弘樹氏は語る。そこで同薬剤部は、外来患者、在宅療養患者について、地域の薬局と協力して副作用の防止と早期発見、重篤化を予防する目的で、薬局薬剤師向けに「フィジカルアセスメント講習会」を2014年3月から実施している。

大分県薬剤師会と大分大学医学部附属地域医療学センターの協力を得て、同大学の医師が講師となって、半期5回を1クールとして講習会を開催。1クールあたり20人をめどに、この2年間で4クールが実施された。大分市や別府市を中心に、遠いところでは福岡県との県境にある中津市や宮崎県との県境の佐伯市などからも薬局薬剤師が参加している。



大分大学医学部教授・
附属病院薬剤部長の
伊東弘樹氏

講習の内容は多岐にわたり、初回は脈拍や血圧などのバイタルサインの測り方、問診や視診、聴診など、フィジカルアセスメントの基本的な手技を学ぶ。次の回からは呼吸器、循環器、腫瘍・血液など各領域の副作用を読み解くためのフィジカルアセスメントを学習する。1日2つのテーマを、2名の医師がそれぞれ講義10分、実技50分で実施。例えば、呼吸器領域の講習では、同大学スキルラボセンターにある呼吸器シミュレーターを用いて、薬剤師一人ひとりが聴診器で肺炎時の呼吸音など、聴診を実習する。

中でも参加者に好評なのは神経診察だ。患者の歩き方からパーキンソン症候群の治療薬の副作用を疑うなど、神経系の症状を捉える診察法を神経内科医が解説する。

講習会修了者を対象としたアンケート調査では、受講前に比べて受講後はフィジカルアセスメントを実施している人が増えている。実際に習得したフィジカルアセスメントを使って、経皮吸収型製剤を使っている喘息患者の脈を測り、頰脈傾向にあったことから薬の減量を医師に提案したケースもある。「講習会を機に、薬局薬剤師さんの意識は変わってきていると思います」と同病院薬剤部副部長の佐藤雄己氏は話す。院外処方率が88%の同病院にとって、保険薬局を支援する意味も含め、今後も講習会を継続していく。



検査値を記載した院外処方箋を 今年1月から開始

同病院では今年1月から、全ての患者の院外処方箋に検査値を記載している(図1)。白血球数やヘモグロビン値など14項目の数値が印字され、各検査値は直近の2回分のデータが記載されているため、最近の経過を把握することができる。また身長と体重、さらに抗がん剤投与時に必要な体表面積と抗がん剤のレジメン名も記されている。

図1 院外処方箋に検査データを記載

院外処方箋 (院外)
(この処方せんは、どの保険薬局でも有効です。)

公費負担番号: 01440001
 公費負担医療の受給番号: 24234
 処方せん番号: 01440001

患者番号: 9300002
 氏名: 大分 花子
 生年月日: 昭和35年01月01日
 年齢: 36歳0ヶ月 性別: 男

処方医: 山田 太郎
 診療科: 呼吸器内科
 住所: 大分県由布市鏡町西六ヶ丘1-1
 電話: 097-549-4411

処方日: 平成28年01月21日
 処方期間: 平成28年01月21日
 特記事項: 処方せんの使用期間 特記のある場合を除き、交付の日を含めて4日以内に保険薬局に提出すること。

処方内容:
 01 50% [処方] 1回 1mg (1日 3mg) 4日分
 02 5mg 1回 0.5錠 (1日 1錠) *別包 分割 5日分
 03 20mg 7枚/袋 1袋 *混合
 04 20mg 1回 1錠 (1日 3錠) 7日分
 1日3回 朝・昼・夕食後 週1日、月曜日に服用

処方No. 8226 入力時刻: 10:19 出力時刻: 10:19

〈患者の皆様へ〉
 ・この処方せんは「院外処方せん」です。交付日を含めて4日以内(土日祝日を含みます)に保険薬局に提出してください。
 ・処方医の印が押してあることを確認してください。
 ・「院外処方せん受付コーナー」では、患者さんの希望される保険薬局に処方せんの内容をアップスで送渡し、薬局での待ち時間を少なくするサービスを提供しています。
 【お問い合わせ先及びお問い合わせ先】 電話番号: 097-549-4411 (代表)

検査項目: HbC, NEUT, HbS, PLT, PT-INR, AST, ALT, T-BIL, 血糖Cr, eGFR, CK, CRP, K, HbA1c
 検査日: 11/06, 11/06, 11/06, 11/06, 11/06, 11/24, 11/24, 12/01, 11/24, 11/24, 11/06, 11/06
 検査値: 182, 179, 11.6, 176L, 1.15, 3.91, 1.62, 0.11, 0.5, 65, 1.09, 3.5, 6.5
 検査値: 69, 71, 0.05, 0.6, 54, 56, 55, 55

※検査項目は、保険薬局でお薬の種類や用量を確認し、副作用を予防するために必要なものです。検査値 (30日以内に測定歴のある検査値を表示しています。)

※HbC, PLTの単位は (10³/μL) です。
 ※eGFR: 体表面積1.73m²あたりの値で表示しています。
 ※検査値の横線は当該薬剤師ホームページ (<http://www.med.oita-u.ac.jp/yakub/>) をご覧ください。

身体情報 (未測定の場合もあります):
 身長: 165.00 cm (測定日 2016/01/06)
 体重: 58.00 kg (測定日 2016/01/06)
 体表面積: 1.63 m²

治療名: medulloblastoma CDDP+VCR+CPA
 postirradiation day 7 or 14
 2016/01/06
 電話番号: 097-999-9999

忘れ外来を担当する医師の希望もあって、薬剤師2名が、診察前あるいは診察後に患者指導を行っている(図2)。

医師から指導の依頼があった患者について、物忘れ外来の隣の診察室で、服薬の仕方や副作用を患者と介護者に説明し、薬剤を変更したときには特に、アドヒアランスや副作用をチェックして、問題があれ

る。これは「患者さんが内服薬だけでなく、注射剤でどういった治療をしているかが分からないと、薬局で患者さんを指導するときに困ることがあるため」(佐藤氏)。外来化学療法をしている患者では、お薬手帳にレジメンに関連した副作用情報も貼り付ける。

処方データや検査値は二次元バーコードに入れ、各薬局でバーコードリーダーで読み込めばデータを蓄積することもできる。

検査値の記載にあたっては、県薬剤師会の協力も得て、昨年準備を始めていた。薬局薬剤師向けに14項目の検査値の解説を含めた説明会を実施。3回の説明会に合計で400人ほどの薬剤師が参加した。

「いろいろな情報が増えて、受け取る薬局薬剤師もたいへんかもしれませんが、1年も経てばこれが普通になり、患者さんにより良い薬物療法ができるようになると思っています」と伊東氏は話す。開始からまだ日が浅いが、検査値を印字し始めて以降、薬局薬剤師から病院へのフィードバックが増えつつあり、薬剤の減量に貢献できたという例もある。

薬剤師外来で服薬アドヒアランスの向上をはかる

一方、昨年8月からは、総合内科・総合診療科が行う物忘れ外来で、薬剤師による薬剤管理指導も始めた。認知症の治療では服薬アドヒアランスが非常に重要であり、物

忘れ外来に伝える。また服薬できない理由を患者から聞いたときは、お薬手帳や電話で処方箋を受けている薬局にもその情報を提供し、薬局での指導に役立ててもらおう。

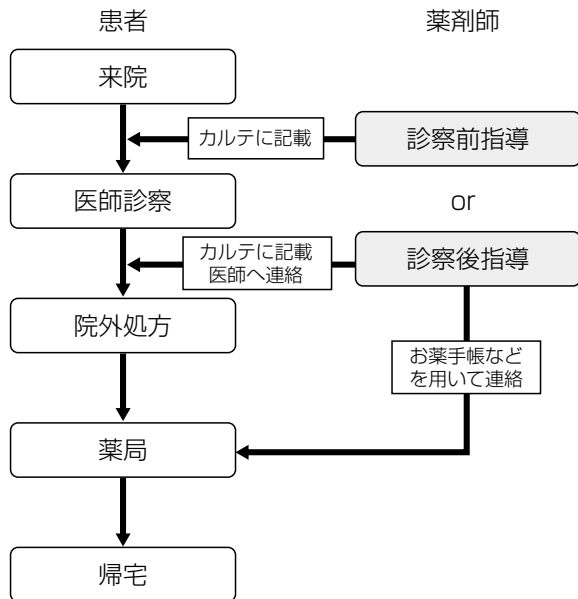
院外処方箋を受け取った薬局薬剤師が、どういう意図で医師が処方したのか分からないときには、外来担当の病院薬剤師に照会すれば、医師に確認して薬局にフィードバックできるようにするなど、橋渡しの役割も果たす。また、薬局から医師に伝えたいことが、病院薬剤師を通して伝えやすくなった面もあるようだ。

患者にとっても、医師に聞けなかったこと、確認し忘れたこと、飲み合わせなど気になることを、この薬剤師外来で聞くことができるので安心が増す。例えば、診察中に医師から薬の減量を勧められ、患者自身もそのときは納得



大分大学医学部附属病院 薬剤部副部長の 佐藤雄己氏

図2 物忘れ外来における薬剤管理指導実施手順



したものの後になって不安になり、薬剤師外来で「本当にその量でいいのか」と尋ねることもあるという。

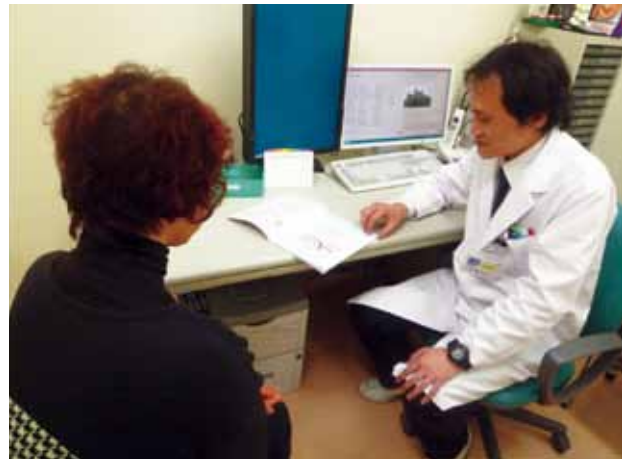
ただし薬剤師外来を円滑に行うには、医師とコミュニケーションできる知識と経験が求められる。言い換えれば、薬剤師外来を成功させることが、調剤だけではない薬剤師の役割を示すことにもなる。薬剤師外来で関われる患者の幅を広げるとともに、「薬剤師がいないと困るんだよねと言われるような存在になることが大切」と佐藤氏は話している。

大学病院の薬剤師は研究も重要な使命

伊東氏は「大学病院の薬剤師にとって、通常の病棟業務だけでなく、研究も重要な使命の1つです」という。先述のフィジカルアセスメント講習会や院外処方箋への検



フィジカルアセスメント講習会の内容は講義と実習を織り交ぜて多岐にわたる。



物忘れ外来の診察室で薬剤管理指導を実施。主治医の近くで指導を行い、常時、直接連絡が可能。

査値の記載も、やりっ放しではなく、その成果を見える形で報告することが求められる。薬剤師外来についても、服薬継続率への影響など、薬剤師が介入することのメリットを今後定量的に評価する予定だ。

また佐藤氏を中心に、いくつかの診療科と共同で臨床研究にも取り組んでいる。感染症領域では治療薬物モニタリング (TDM) に関する研究を、腎臓外科・泌尿器科や腫瘍内科、腎臓内科とも共同研究を進めている。「大学病院では、医師は診察も研究もしていますから、薬剤師も医師と同じようにやっていかないといけないという思いもあります」と伊東氏は打ち明ける。

保険薬局とも共同で、昨今問題となっている残薬に関するデータをとっていく計画もある。こういった新しいことへの取り組みは常に手探りだが、「データをまとめて結果を出すことが、薬剤師のモチベーションアップにもつながると思います」と佐藤氏も意欲を見せる。

薬剤師の少ない地域で高校生向けの見学会

大分県は県内に薬学部がないこともあり、薬剤師の数は十分とはいえない。他県の大学の薬学部を出て、新卒で入ってくる薬剤師は年間に20～30人だ。

同薬剤部では昨年、大分県教育委員会の後援で、高校生向けに見学会を開催した。大学での薬学教育や卒業後の進路、病院や薬局、行政機関での薬剤師の仕事を説明し、その後で大学病院での薬剤師の仕事を見学してもらおうというもの。高校2～3年生が70名ほど集まった。「そういう生徒たちが薬学部に行って、大分に戻ってきてもらえるといいと思っています」と伊東氏は期待する。